

図書館だより

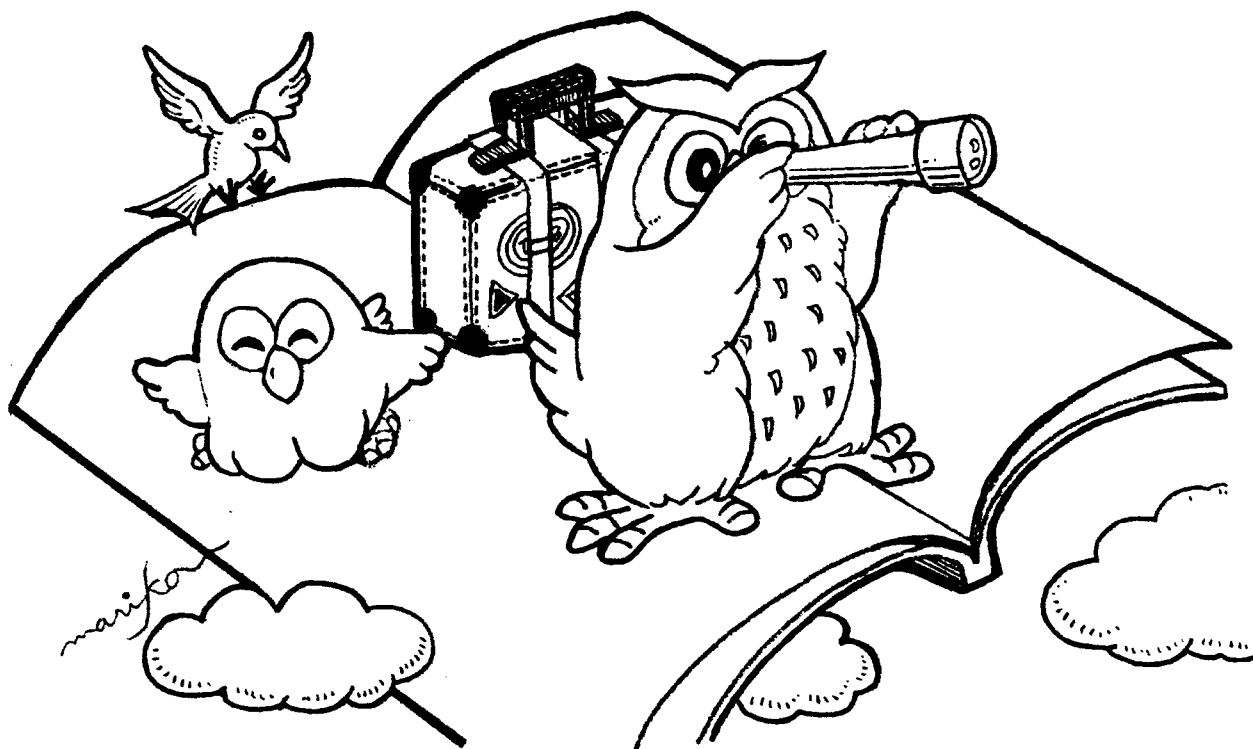
発行 多可町図書館

〒679-1133 多可郡多可町中区糀屋 434-11

TEL 0795(32)5170

FAX 0795(32)5171

<http://www.library.taka.hyogo.jp/>



「子ども達の笑顔に励まされて」

伊丹市ボランティアグループ「さざんか」 湯里茂子

この度、多可町図書館とのご縁があり、布おもちゃの講習会をお受けする事になりました。御地は私の実家の両親の故郷であり、又、戦時中、学齡前の私は兄や姉と一緒に伯父の家に縁故疎開で預かってもらったことがあります。その多可町で皆さまとお会い出来てとても楽しいひとときでした。

「さざんか」は1978年伊丹市で兵庫県婦人ボランティア講座が開かれた翌年、修了生有志で結成。最初は視力に障害のある子ども達に点字付き絵本を作りましたが、絵の部分の表現が難しく、試行錯誤の繰り返しでした。4年程過ぎた頃、障害児施設から紙芝居を1枚のパネルに仕上げて欲しいとの依頼がありました。その作品を学園にプレゼントし、保育の参観をさせてもらいました。そこで出会った子ども達の笑顔や目の輝きは忘れられません。その頃から障害をもった子ども達と一緒に遊びながら、日常生活訓練が出来る布の絵本や遊具を作っています。布は感触がやさしくあたたかさが魅力です。ボタンやスナップ、フアスナー、紐などを使って絵が動くように作ってあるので触って楽しめます。作品づくりは先生方と打ち合わせをしてアドバイスをお願いしたり、子ども達との遊びの中からアイディアを出し合ったりしています。そのため例会はおしゃべりや打ち合わせでとても賑やかです。貸出も年々忙しくなってきました。

「さざんか」は来年30周年を迎えます。「一針一針愛を縫い込んで」、これは私達の合言葉です。これからも使ってくださる方に心が伝わる作品づくりを楽しみながら励みたいと思っています。そして、ここ多可町にも手づくり絵本の輪が、大きく広がりますようお願いしております。

トピックス

◆かるた会(1/12)



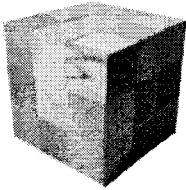
毎年恒例となった、かるた会。今年は「播州弁かるた」にほんごである「ぼ」などのかるたを使つて、3つのグループにわかれて行いました。ここでは、学校や年齢が違つても図書館という場がみんなの共通点。友達の輪も広がったのではないだろうか。

◆ストーリーテリング講座終了

10月から開講した講座も2月で終了しました。この講座では、ほぼ全員の方が覚えたおはなしをみんなの前で語られました。アンケート調査でも、また参加したいという声をたくさんいただきました。大変好評でした。そこで、読み聞かせ講座やストーリーテリング講座、さらには手づくり布絵本講座も開催する予定です。ぜひ、ご参加ください。

◆頭の体操になります

木で出来た立体パズルを宮崎謹一さん(中区)からいただきました。毎日挑戦してみるものの、これがまた非常に難しい!!館内に置いてあります。一度挑戦してください。



平成19年度

図書館利用状況報告

(平成20年2月末現在)

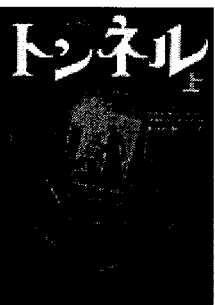
図書館が開館して4年が経ち、年々、登録者数や貸出冊数は増えてきています。昨年度、加美・八千代公民館図書室とシステムを統合したことで図書の移動も可能になりました。そのため、お近くの図書館(室)で貸出・返却ができるようになり、多くの方に利用していただいています。

しかし、まだまだ、町民の方の登録率は少ないのが現状です。本の宅配やインターネットからの本の検索・予約などできます。図書館をフル活用してください。

登録者数	6, 237人
貸出冊数	152, 215冊
蔵書冊数	
多可町図書館	81, 906冊
加美公民館図書室	9, 632冊
八千代公民館図書室	5, 385冊
出庫冊数(本が移動した数)	
多可→加美	1, 960冊
多可→八千代	1, 050冊
加美→多可	3, 697冊
加美→八千代	83冊
八千代→多可	2, 536冊
八千代→加美	51冊

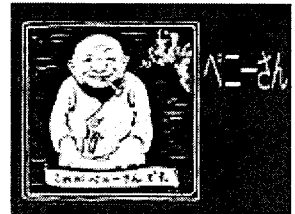
あんな本 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

『トンネル 上・下』ゴマブックス
ロデリック・ゴードン他/著 (K933 コ)



ウィル・バロースは家族とともにロンドンで暮らしている14歳の少年。大発見を目指す博物館館長の父親の探鉱に付き合っている。そんなある日、父親が忽然と姿を消してしまった。ウィルは父親が密かに掘り進めていたトンネルを発見し、親友のチェスターとともに、父親の捜索に乗り出すが…。トンネルの先で彼らが見つけたものは謎に包まれた地下世界だった。そしてそこにはウィルの出生の秘密が…。意外な展開が次々と起こる冒険ファンタジーです。(た)

『ペニーさん』徳間書店
マリー・ホール・エッツ/さく (Eエ)



ペニーさんは、年とった男の人で、今にもこわれそうな小屋に、馬、牝牛、ヤギ、豚、子羊、メンドリ、そしてオンドリと一緒に住んでいました。この大勢の家族を養うため、毎日町の工場に働きに行きました。ある日、動物たちはおとなりさんの畑をすっかり荒らしてしまいます。かんかんになったおとなりさんは、動物たちをお払い箱にするか、たくさんのお金を片付けるかだと言います。困り果てたペニーさんを見て、動物たちはこっそり仕事を片付けていきます。文字が多く、手に取れにくいのですが、動物たちの表情がとても楽しい絵本です。(み)

[illegible]

たくさんのご来館ありがとうございました。

3月2日 朗読講座

講師に伊藤恵美先生をお招きして、開催した朗読講座。「きやけ・き・きゆけ・きよきやきよ…」みなさん真剣に発音練習。「楽しかった、いい勉強になった。」と好評の講座でした。



3月8日 創作リボン盆栽一日体験



八千代公民館講座の創作リボン盆栽（講師 阪田富美子先生）を図書館で行いました。今回は土筆づくりに挑戦。わきあいあいの中、細かい作業で、時にはため息の出ることも。そんな中、とてもかわいい作品が出来上がり、喜びの声があちこちで聞かれました。



今年度は「図書館と手づくり絵本」をテーマに開催。湯里さんが代表の「さざんか」、赤穂市立図書館、たんば手づくり絵本の会、福岡町立図書館応援隊、サポーター・ねつと、それぞれの手づくり活動や今後の抱負を語っていただきました。作品もたくさん見せていただき、充実したフォーラムでした。

図書館だよりすきフォーラム

今年度、布絵本講座（全4回予定）を行います。そのプレイベントとしてウサギやゾウの指人形を作りました。完成した人形を手に、みなさんとてもやさしい顔をされていました。だれを思い浮かべながら作られたのでしょうか。



3月9日

本と雑誌の リサイクル広場

開館前から図書館の前には人だかりが。そして、10時の開館と同時に学習室は超満員。熱気につつまれました。それぞれ思い思いの本を見つけてお持ち帰りいただきました。



3月15日 絵本カバーで パズルを作ろう

お気に入りの絵本を見つけてパズルづくり。中には細かいピースを作りすぎて難しいパズルになっている子どもも。



講談社おはなしキャラバン

全国を訪問している講談社のキャラバンカーが楽しい絵本を満載して図書館にやってきました。当日はおはなし会も開催されました。楽しいひとときでした。

表紙の人 湯里茂子さん



1939年、尼崎市に生まれる。1978年、県婦人ボランティア講座を受講。子育てをしながらボランティア活動をし、現在、「さざんか」の代表や伊丹ボランティア連絡会会長、老人ホーム「協同の苑」理事などをされている。障害者（児）、高齢者の介助、施設の手作りおやつの会などボランティアを楽しみながら、活動されている。現在、伊丹市在住。

図書館だより

発行 多可町図書館
〒679-1133
多可郡多可町中区糀屋 434-11
TEL 0795(32)5170
FAX 0795(32)5171
<http://www.library.taka.hyogo.jp/>

「本の値段」

館長 徳平みゆき

森本哲郎さんは『読書の旅』で、「本はお金に代えられない、本のよしあしは値段とあまり関係がない。」とおっしゃっています。この本の中でたとえに出てくるのが、ローマの王様。一人の巫女が王様に本を九冊持つてきます。値段がとても高く、王様が値切ると、巫女は三冊を火に投じて燃やしてしまいます。残りの六冊を買おうと値段を聞くと、同じ値段だと言います。王様がそれはひどいと言うと、また三冊を燃やしてしまいます。結局、王様は残った三冊を、九冊と同じ

値段で買う羽目になりました。森本さんは、この巫女は本というのは、金銭に換算できないことを示したかったのではないかと言っています。確かに七百円の文庫本が七百円の価値かというところ、これは難しい問題で、「この本で人生が変わった。値段なんて付けられない」という人があるかと思えば、「こんな本に七百円も出して損した」という人だってあるわけです。本って不思議ですね。「私の一冊」に出会えた人は幸せだと思います。ところが、どれだけ読めばその一冊に出会うかわかりません。それまで本を買い続けたり、どれくらいのお

金がかかるのでしょうか？
その点、図書館はいいところです。本を借りればお金はかからないし、保管場所だって要りません。おまけにいろんな種類の本があるので、思わぬところから「私の一冊」が出てくる可能性があるのです。図書館は使えば使うほどお徳な施設です。そのことが、まだあまり知られていないようで残念です。
そして、図書館の中では、また違う算用をしています。人気のある本は二十回、五十回と借りられていきます。千六百円の本として、三万二千円、八万円、「おお、君って働き者だねえ！」



特集

手づくり絵本の魅力

手づくり絵本とは

手づくりの特徵は既製品とは違い、やさしさや温もりを感じるところではないでしょうか。材質もさることながら一点だけのオリジナルということもあって愛着もわきます。

図書館にはサポーター・ねつとのメンバーからいただいた布絵本が児童書のコーナーに置いてあります。手ざわりを楽しむ以外に、中のページを自由に張替えることもできます。それも魅力の一つだと思えます。子どもたちは想像力を働かせ、楽しそうに遊んでいます。



図書館では

昨年度は、「子ども絵本づくり教室」や「手づくり絵本展」、「布おもちゃづくり教室」を開催しました。3月の図書館だよりすきフオーラムでは「図書館と手づくり絵本」をテーマに講演会や活動報告が行われました。各方面でボランティア活動をされている方の話は非常に興味深く、参加者にとって今後の活動に刺激となる内容でした。

「布絵本制作講座」に参加して

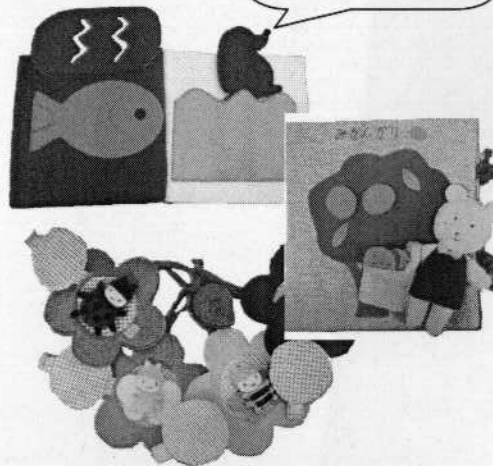
可愛い布絵本を作ってみたくて!!
と思つて参加しました。講師の先生方が、縫うだけで作品が仕上がるようにとあらかじめキットを用意してくださっていたのですが、私自身、普段し慣れないことで大変でした。でも、いい絵本が作れました。本当にありがとうございました。



布絵本製作講座

今年は6月15、22、29日の3回にわけて講座を開講し、20名の皆さんが布絵本づくりに挑戦しました。講師は布おもちゃづくりでお世話になった湯里茂子先生。魚についているチャックを開けるとかわいい小魚が入っているなど様々な工夫がほどこされています。みなさん、楽しみながらも一針一針、真剣に取り組まれていました。

図書館内にはこんな布絵本が置いてあるよ



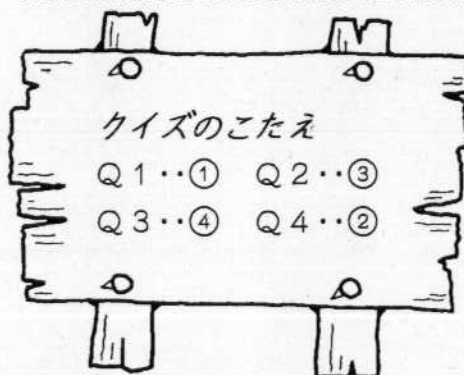
ふくちゃん ウィンク



今回の図書館だよりからレイアウトを大胆にリニューアルしました。紙面もさることながら表紙のタイトルロゴがいつもと違うのに気がつかれたでしょうか。実は、トライやるに來た生徒たち(6名)に一文字ずつ書いてもらったのです。お互いが文字のバランスを考え、ちよつと緊張しながら書いてくれました。なかなか味のある仕上がりになったのではないのでしょうか。(け)

布絵本づくりに挑戦してみたいという方、
こんな本はいかがですか

- 『布絵本と手作りおもちゃ 乳幼児の知育あそび』
- 『布えほん・布おもちゃ かんたん!愛情手作り』
- 『楽しく遊べる0~3歳赤ちゃんの布おもちゃと布絵本』
- 『ママの手作り布絵本 楽しい仕掛けと遊び心がいっぱい』
- 『かんたん!かわいい!0・1・2歳児の布おもちゃ&布えほん』
- 『手作りの布おもちゃと布絵本0~3歳』



クイズのこたえ

- Q1...① Q2...③
- Q3...④ Q4...②



☆自転車図書館

ある朝出勤すると図書館の駐輪場に不思議な人が。この方の名は土居さん。自転車に特製の水車をつけ愛知県から全国の図書館を回られています。水車部分が本棚になったこの自転車図書館で借りた本は、「また貸し」OKで、本が全国を旅するのにも本がやってくるかもしれないですね。日本経済新聞(5/21日付)でも紹介されました。



☆手づくり絵本教室

昨年の夏休みに牛乳パックを使用した不思議なからくり絵本を作りました。今回は、紐を使った絵本を作ります。講師 村上祐喜子さん 日時 8月2日(土) 午後2時~4時 8月3日(日) 午前10時~12時 (2日間で一作品を作ります) 詳しくは図書館までお問い合わせください。

☆スタンプラリー

今年の夏休みもスタンプラリーを実施します。お楽しみに!!



トライやるをを終えて

6/4~8日にかけて6名の中学生が図書館の仕事を体験しました。みんなの感想です。

- ・多可町図書館での活動は周囲から見るよりとても疲れました。特にカウンター仕事が大変でした。この体験が将来に繋がると思います。(あ)
・初めて図書館で仕事をして疲れたけど結構面白かった。カウンター業務が一番楽しかったし、また、やりたい。(お)
・初めはとても難しく苦勞もたくさんしましたが、最後の方は楽しく出来てよかったです。(く)
・このトライやるをやって色々と学べたのでよかったです。(ふ)
・本の貸出の時、人がたくさん来た時、とても大変でした。(み)
・5日間いろんな体験が出来たし、仕事のしんどさ楽しさがわかってよかったです。(む)

『恋のトビラ』

石田衣良ほか／著 集英社 (913.68イ)

「恋」の形を見つけるための参考本。読むだけで、「恋」したくなる話の雑誌「ノンノ」で人気のあった5つの話からなるもので、既婚者、未婚問わず、高校生以上なら分かるのでは?



この「恋」というのは、正解がなく、理想と現実が大きく異なり、十人十色なものです。ガッツ石松さんの「OK牧場」という発想は、何?とあなどっていると、後悔するかもしれません。うまくいくことだってあります。形にこだわらず、心のトビラを開いてみては。(あ)

『よみがえれ!国産ジェット』

杉山勝彦／著 洋泉社 (538ス)

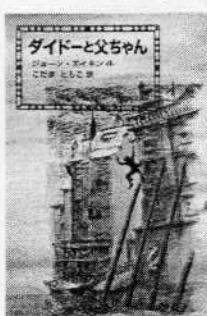
第二次世界大戦後の七年間、日本は航空機の開発、製造等が禁止された。その間欧米では、ジェット機に関する技術が急速に進歩、確立され、乗り遅れてしまった。その後、国産のYS-11が開発されたが、プロペラ機であり、しかもプロペラとエンジンは国産ではなかった。このような日本が、国家プロジェクトでジェット旅客機を開発を進めたが、空を飛ぶ事は無かった。しかし今、リージョナルジェット(コミューターとしての小型機)の開発が民間主導で進められている。このプロジェクトを成功させるために何が必要か、技術だけではなく様々な問題が山積している。国産ジェットが世界の空を駆けめぐるのはいつの日か。(か)



『ダイドールと父ちゃん』

ジョーン・エイキン／作 富山房 (K933エ)

一九世紀のロンドン、ある辺境伯爵が国王の暗殺・すげ替えを企んでいます。伯爵に仕える音楽師の娘ダイドールは、伯爵たちの悪巧みに気づいていきます。ダイドールは国王に仕える公爵のサイモンたちと、この悪巧みを阻止しようとします。陰謀が渦巻く中、ダイドールの身にいろんな危険が迫ります。また大陸のオオカミが海を渡ってうろつくようになります。ただでさえ物騒になってきます。計画の実行はテムズ川トンネルの開通式典、さて成り行きは如何に! (み)



『おおきな木がほしい』

さとうさとる／ぶん むらかみつとむ／え 偕成社 (Eむ)

「ぼく、大きな木があるといいな。」ある日、かおるは大きな木がほしいと思いました。かおるの考えている大きな木はこんなすてきな木です。太い幹にはしごをかけて下から二番目の枝まで登ると、木の幹にぼっかりほらあなが開いています。かおるはそこに小屋を作り、その小屋でホットケーキを焼いて食べたり眠ったりするのです。上のほうにはリスの親子と小鳥たちが暮らしています。誰でも子供の頃、かおるのように木の上で過ごすことを空想したことがあるのでは。高いところに吹くさわやかな風を本当に感じられるような、夢いっぱい絵本です。(さ)



こどもの言葉の便り

子どもたちよ 子ども時代をしっかりと たのしんでください おとなになってから 老人になってから あなたを 支えてくれるのは 子ども時代の「あなた」です 石井桃子 2001年7月18日

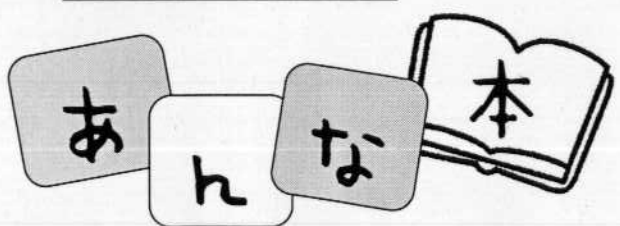
夏の便りは、「ノンちゃん雲に乗る」「幼ものがたり」の作者石井桃子さんの言葉です。石井さんは「クマのプーさん」「ピーターラビット」をはじめ、数多くの海外の絵本や物語を、美しい日本語に翻訳して、世界の児童文学を紹介されました。また、自宅の一部を開放した『こども図書館「かつら文庫」』を開設して、地域のこども達に、読書の楽しさを伝えました。「子ども達といっしょに、本を読んで人生と日本語を勉強したい」と、子どもと本との思いを語られていた石井さんだからこそ、今年の春、4月2日の「国際こどもの本の日」を、永遠の旅立ちの日に選ばれたのでしょうか。



日本に児童文学と家庭文庫の礎を築かれた石井桃子さんに関するクイズです。

- Q1 昭和3年(1928年)、日本女子大・英文学部を卒業後、入社した出版社は ①文藝春秋社 ②新潮社 ③岩波書店 ④福音館書店
Q2 昭和8年(1933年)、クリスマスイブの夜に犬養邸で出会った原書は ①トム・ソーヤの冒険 ②星の王子様 ③プー横丁にたった家 ④ピーターパンとウエンディ
Q3 昭和29年(1954年)、ロックフェラー財団奨学金で、最初に留学した国は ①オランダ ②イギリス ③カナダ ④アメリカ
Q4 昭和33年(1958年)、自宅に開設した「かつら文庫」のかつらとは ①オリーブ ②ローリエ ③ラベンダー ④ローズマリー

こたえは 最終ページです。



図書館だより

発行 多可町図書館
〒679-1133
多可郡多可町中区糺屋 434-11
TEL 0795 (32) 5170
FAX 0795 (32) 5171
<http://www.library.taka.hyogo.jp/>

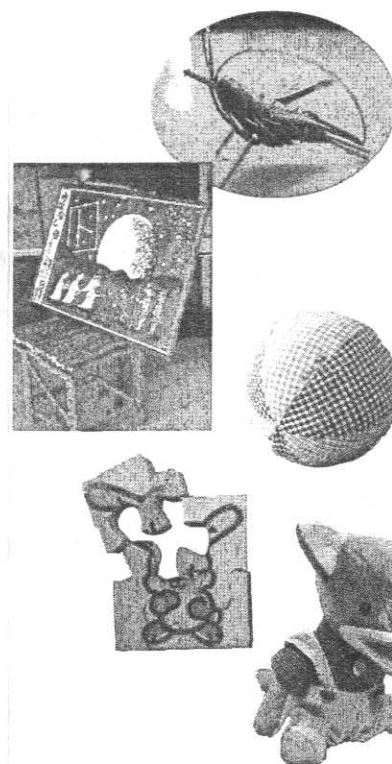
手づくり絵本の会が 発足しました



利用者の手づくりに関する意識の高まりを受け、昨年度から手づくりに関する講座やフォーラムを開催してきました。そのかいあってか、今回、6月に開催した布絵本講座の受講生6名が集まり、手づくり絵本の会を作る運びとなりました。会合が8月5日に開かれ、これからの活動について話し合われました。9月13日には実際に作品づくりが始まり、クリスマスには第一弾が出来上がる予定です。

このボランティアグループに参加してみたいという方、お待ちしています。一緒に作ってみませんか？

図書館には、布絵本をはじめ、いろいろな手作り作品が飾られています。

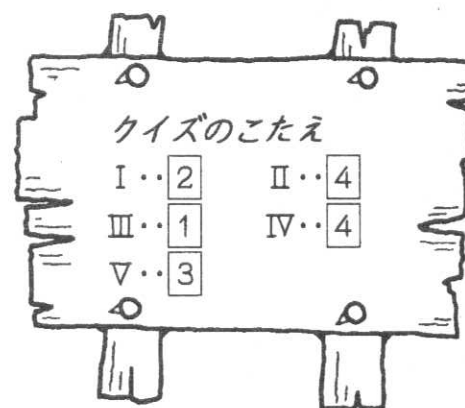
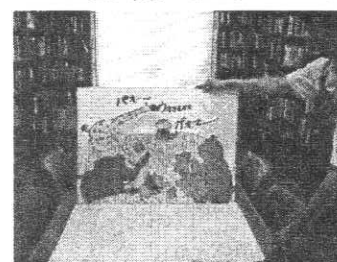


「大活字本」を存知ですか？

「本は読みたいけれど、文字が小さすぎて目が疲れるから…」と、いう方、図書館には通常より文字の大きい、大活字本を置いてあります。今までは、本は読みづらくてと思われていた方も、一度ご覧ください。

奇麗にいただきました

町内の保育所・幼稚園の先生方が有志のグループを作られ、オリジナル大型絵本「りんごがひとつ」を作成されました。絵が飛び出すように工夫もされ、動物たちの絵もかわいい絵本です。一冊しかない貴重な本ですが図書館に寄贈いただきました。



実際の文字の大きさです。

海坂藩普請組の細い特色がひとつあつたの幅六尺に足りない城下からさほど遠くない

10月27日～11月9日は
読書週間です。



ふくちゃん
の
ウィンク

町のあちこちで太鼓の音が聞こえてきて、いよいよ秋本番です。読書の秋というだけあって、本を読むには最適な季節です。近頃、昔読んだ本をもう一度読んでみたいと思ってもすでに本は絶版になっていたりすることが多々あります。当館が所蔵していればいいのですが無い時は、ますます読みたい思いが募りますね。そんな時、図書館とは便利なもので所蔵していない本については他市町の図書館から借りてきて貸出してもらえます。

私も、小学6年生の時に担任の先生から読んでもらった本をもう一度読めればなんて思っています。(け)

”出会い”って不思議…
おはなしサークル「あいあい」
代表 遠藤ひとみ

この夏、東京でとても嬉しい出会いがありました。古くから家族ぐるみでお付き合いのある知人の娘さんで、生まれつき全盲の彼女に初めて会ったのは、彼女が小学校一年生の頃だったと思います。すでに社会人となった彼女と、今回二十年ぶりの再会となりました。

夕食を共にしながらお互いの近況報告をし、再会のよろこびを分かち合い、心の底から楽しく充実したひとときを過ごして別れました。

ホテルに戻ってのんびりしていた私の携帯に、彼女からメールが届きました。会えて嬉しかったということ、メールの最後には、かつて「点訳してくれたい『野バラの村の物語』」の本を今でもたまに読んでいます。かわいいうねズミたちが出てくる美味しい食べ物満載のお話。点字はもうずいぶん薄くなっているけど大切な一冊です。今夜もこの本を読んで寝ようかな。とありました。

彼女には失礼ながら、点訳した私はこの本のことをすっかり忘れていました。でも、この本は二十年以上もの

間ずっと彼女といっしょだったのです。点字がすり減るほど幾度となく彼女は、この本を読み返してくれていたのです。何というありがたいことなのでしょう。嬉しくて嬉しくて…”出会い”というものの縁(えにし)と不思議を感じずにはいられません。離れていても”人と人とは見えないものの力”でつながっている”ということ”を強く感じた出来事でした。

人も本も、ささやかな出会いが心を豊かにしてくれるものなのです。

(※講談社刊 ジル・パークレム作 岸田裕子訳)



☆図書館発

蒼い地球号 2008 (7/5)

名古屋大学名誉教授で中区安坂在住の上田豊さんの講演会「地球温暖化と氷河」を開催しました。

氷河の研究者、上田さんは、ヤルカン初登頂などヒマラヤ登山、南極観測隊に参加されました。講演会ではスライドを用い、70年代と現在を比較し、氷河が減少していることを説明。現在の生活を見直すきっかけになればと提言されました。100人を超すご来場をいただき、立ち見ができるほどの盛況でした。



説明。現在の生活を見直すきっかけになればと提言されました。100人を超すご来場をいただき、立ち見ができるほどの盛況でした。

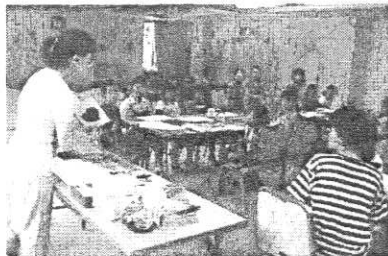
☆うごくひも絵本作り

(8/2・3)

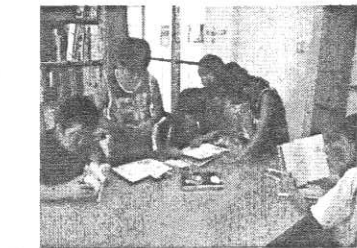
村上祐喜子先生をお招きして、うごくひも絵本作りの講座を開催しました。

幼稚園から小学六年生までの子どもたち20名が参加しました。一日目は、本の形を作り、物語を考えました。二日目は、本に絵や物語を書き込み、絵本を完成させ、最後にはみんなの前で作品を披露しました。

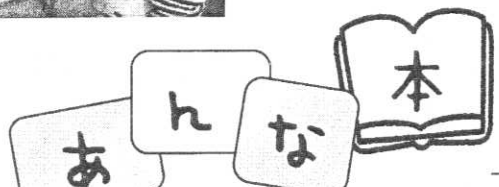
限られた時間の中で、個性にみちた、世界に一つだけの絵本を作る事が出来る発想力に驚きました。参加者の中から絵本作家が誕生するかも？



☆スタンブラリー



小学生を対象に行っている夏休み恒例のスタンブラリー。今年は過去最多である204名が参加してくれました。これがきっかけとなってお気に入りの一冊がみつかるとうれしいです。



『愛しの座敷わらし』

荻原 浩/著 朝日新聞出版 (Fオキ)

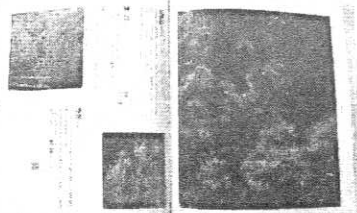
高橋家の主人晃一は、大手食品メーカーの課長だが地方に転勤に。家族の住まいとして築百三年の古民家を借り入れて妻、長女、長男、晃一の母親であった。しかし、田舎での暮らしは、新しい環境、人との出会い、そしてもう一人の「古民家の住人」とふれあうことにより、家族を顧み、絆を取り戻してゆく。ささやかな希望と、家族が再生してゆく様子が描かれており、ほんのりとした気持ちで楽しめる一冊です。(か)

『空の名前』

高橋健司/著 角川書店

(451タ)

空がきれいな季節になりました。この本は、雲、水、氷、光、風、季節の章に分かれ、それぞれの名前が写真と一緒に紹介されています。鯛雲、こごり雲、春雨、薄雲、細雪、鎌鼬、半夏生……。お馴染みの言葉もあれば、ああこういう事を言うんだと思う言葉もあり、写真が言葉の意味を補ってくれます。この写真が美しいので、眺めているだけでも楽しめます。索引も付いていて、分からない言葉を調べるのにも利用できます。(み)



ターシャ・テューダーに関するクイズです

《こたえは最後のページに》



- I ターシャの名前は、父親が大好きだったトルストイ(ロシアの作家)の作品の登場人物から名付けました。その、作品名は
- 1 アンナ・カレーニナ 2 戦争と平和
3 復活 4 トロイの木馬
- II 13歳の誕生日に、飼いたかった動物をプレゼントされます。その動物は
- 1 ロバ 2 ヒツジ 3 ヤギ 4 乳牛
- III 自分の子供達といっしょに各地で公演をしました。その公演は
- 1 マリオネット 2 マジックショー
3 紙芝居 4 ラップダンス
- IV 『パンプキン・ムーンシャイン』は結婚した年に、姪へのプレゼントに描きました。その記念日は
- 1 誕生日 2 復活祭
3 ハロウィン 4 クリスマス
- V 40代の後半に一度だけ日本の古都を訪れています。その古都は
- 1 津和野 2 金沢 3 奈良 4 平泉

こと 葉 便利 かくちゃんの言の

アメリカの心を描いた女性
ターシャ・テューダー

何事にもそれに適した季節があります。若い人達には、若い人の季節があり、高齢者には若者とは違う季節があります。それぞれの季節に楽しめることを見つけようとすればいいのではと思います。

『生きていることを楽しんで』
—ターシャ・テューダーの言葉特別編より—

アメリカ北東部・バーモント州の広々とした土地に、四季折々の草花が美しい庭と18世紀の様式を模した家「コーギコテージ」があります。ターシャさんは、その中で日常生活のほとんどは手作りをしながら創作活動を続けていました。

初めての絵本は、1938年に出版された『パンプキン・ムーンシャイン』ですが、出版に至るまでにはニューヨーク中の出版社を全て訪ね回ったそうです。代表作の『コーギビルの村まつり』や『ベッキーのたんじょうび』の絵本以外にも、マザーグースやアンデルセン童話の挿絵、グリーティングカードなど多彩な作品を描いています。

1830年代の生活様式に憧れ、子供の頃からの夢をあきらめずに、自分の理想とする生き方を手にしたターシャさん。そんなターシャさんの生活スタイルや考え方に、これから多くの人々が感銘と憧れを受け続けていくことでしょう。



『すえつこちゃん』

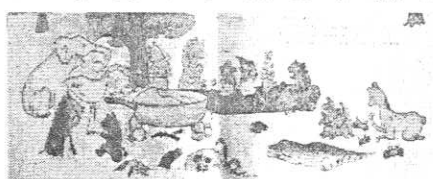
エディスIIウンネルスタッド/作
フェリシモ出版 (K949ウ)

オーちゃんは今、五歳。スエーデン・ノルチエピング市の古いアパートに住んでいるピツプルソンの家の七人兄弟の末っ子です。猫のクロに服を着せて乳母車に乗せて散歩していたら、犬が追いかけてきて大騒ぎになったり、三つ編みの練習をしたくってお兄ちゃんの頭を三つ編みだらけにしたり、おませで元気いっぱいのおーちゃん。どんなにいたずらをしていても明るく笑って受け止めてくれる両親や兄や姉、ご近所の人たちに温かく見守られ、のびのび遊んでいるオーちゃんの姿は、子どもらしいかわいらしさがあふれています。大人も子どもも楽しめる物語です。(さ)

『ぐりとぐら』

なかがわりえこ/文
おおむらゆりこ/絵
福音館書店 (Eや)

幼い頃に、母親から読んでもらったのを覚えています。ぐりとぐらが、森で見つけた大きな卵で、大きなカステラをつくり、森のなかま達と食べるというユーモアたっぷりで、結末まで面白い内容だったと今でも記憶しています。初版は一九六七(昭和42)年ですが今も読みつがれています。次の世代にも、自信を持っておすすめできる宝物です。(あ)



発行 多可町図書館

〒679-1133

多可郡多可町中区糺屋 434-11

TEL 0795(32)5170

FAX 0795(32)5171

<http://www.library.taka.hyogo.jp/>

図書館だより

「布絵本」サークル誕生！

代表 藤原弥奈子

昨年六月に図書館に於いて伊丹市のボランティアグループ「さざんか」さんの指導で、布絵本講座が開催されました。私はこの講座に参加して、改めて手作りの温かみや楽しさを実感しました。

三回の講座だけでは時間が足りませんでした。が、「さざんか」さんに手伝って頂いたり家でも作ったりして、なんとか絵本が完成しました。表紙はそれぞれ自分たちで考え、個性溢れる作品となりました。中の内容はみんな

同じ材料、同じデザインですが、顔の表情・配置によって仕上がりが微妙に違い印象も変わってきます。それが手作りの味・良さだと思います。どれ一つとして同じ物はありません。また、作った本を喜んでいる子どもさん聞いたと聞くと次はどんなのを作ろうか？と制作意欲が湧いてきます。

今回の講座に参加した図書館ボランティア「サポーター・ねっと」のメンバーによる「布絵本」サークルが九月に誕生しました。今までは個人的に布絵本を作っていました。個人では限界があります。今は、サークルのメンバーと一緒に試行錯誤しながら

みんなで一つの作品を作る楽しさを味わっています。夢は大きく、地元の播州織を生かしたオリジナルの作品を作ることです。また、スタートしたばかりで、手際よくいきませんが、自分たちのペースで楽しくやっていきたいと思っています。

最後にこのサークルを始めるにあたり、「さざんか」のみなさんや図書館職員の方にはお世話になり感謝の気持ちでいっぱいです。これからもう少しお願い致します。まだまだ、メンバー募集中ですので興味を持たれた方は図書館までお問い合わせください。お待ちしております。



特集：

私はこんな風に図書館を使っています。



—— 図書館の利用の仕方は人によってさまざまです。

図書館に来られた方に聞いてみました。——



まず、うろ覚えのタイトルや作者名でも探してもらえます。ちゃんと調べないまま本をリクエストしても、いつも探し出して頂いている。次に、自分で持たなくても整理しなくてもいい。物事をキチンと整理出来ない性格の自分には、代わって管理して頂けるのはとても有難い。何度でもすぐ見直す事が出来る。見たい本が行方不明でイラつく事もない。

最後に、スタッフの皆さん、いつも有難うございます。(50代 男性)

私は現在、資格試験の勉強を続けています。しかし、家ではTVを見たりして、つい時間を過ごしてしまうので、1時間、2時間でもあれば図書館へ行き、学習室で勉強するようにしています。

また、勉強の合間に新聞、雑誌等を読むことができ、よい気分転換にもなるので、大変助かっています。(20代 女性)



書斎を持たない私にとって、図書館のあの大きな机はとても魅力的。ノートやテキスト、書きかけのプリント数枚はもちろん、辞書に参考資料、その日の新聞などを広げてみるがまだまだスペースがある。気分転換に書架から雑誌を2・3冊持ち出し置いてみるがまだ、大丈夫。これを家でやると、ただの「ちらかった部屋」となり気分が悪い。図書館だと少し賢くなったような気がする分、片付けも苦にならない。

そして、調べ方に行き詰れば、カウンターに直行。欲しかった本がどっさり揃う。心理的にも物理的にもなんて便利な所よ…。

(30代 女性)

週に3・4冊ほどの本を読む私にとって、自宅から数分の図書館はまさに“離れの書庫”的な存在です。その地の利に加え、蔵書も比較的新しく、新刊本が充実しているのが魅力です。読みたい本は、ネットの図書館ホームページで蔵書検索し、なければリクエストしています。その取り寄せが早いのも嬉しい。また、返却ポストが案外便利で、夜にウォーキングがてら本を返却することもあります。私にとっては既に便利な図書館ですが、更なる充実を期待します。(40代 男性)

地域の子供会役員をしている関係で、7月の中学生ソフトボール・11月の小学生ミニサッカーと子ども達の練習に付き合う事になりました。どちらのスポーツも子ども達に指導をした事がなかったので、練習方法や指導方法が載っている解説書(なるべく写真が多いもの)などを多く借り、勉強をしました。(40代 男性)



図書館は家族で愛用しています。絵本はまず借りて、子どもが興味を示せば買うようにしています。2週間も借りられるのでゆっくり見れていいですね。失敗が無く、とても役立っています。他にも雑誌など本を予約していますが、いち早く見ることが出来とても便利です。今では顔を覚えてもらって、たくさんのイベント情報などを直接教えてもらっています。アットホームなのはここの図書館の魅力ですね。これからも活用していきたいと思っています。(20代 女性)



明けましておめでとうございます。本年も皆様のご来館をお待ちしています。

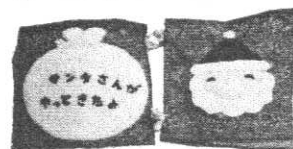
クイズのこたえ I...② II...④ III...③
IV...① V...③

◆第一弾完成!!

前ページで紹介しました、布絵本サークルが作品を完成されました。タイトルは『サンタさんがやってきたよ』。サンタさんが、ネコには魚を、ゾウにはバナナをとそれぞれにあつたプレゼントを用意している楽しい布絵本です。



今後も月一回のペースで活動される予定です。なお、ご家庭に余っている電動ミシンがありまして、布絵本サークルにお譲りください。



◆おはなし発表会

(10/28)

「秋のおはなし会」と称して、おはなしサークル「あいあい」のみなさん、小野市で読み聞かせ活動をされている方々、そこに職員も加わり、初めておはなしの発表会をしました。

日頃は、子どもを対象におはなしをしています。今回は聞き手が全員大人。いつもとは違った緊張感が漂いました。一人ずつおはなしを披露し、その後、感想を述べ合うなどの反省会。今後の活動に活かしていければと思っています。



◆掘り起こし隊
十月のおすすめ本コーナーは、「サポーター・ねつと」のみなさんに、まだ一度も貸出のない本を探し出し、おすすめコメントをつけて紹介してもらったものです。このコメントを見て、多くの方に利用していただきました。

図書館の貸出冊数は七十万冊を超えました。中には百回以上も貸出されたものもあれば、一回というものもあります。貸出のない本の中にもまだまだ面白い本がたくさんあります。みなさんも一度、書棚をゆっくり回って、未貸出の本を掘り起こしてみませんか。

東野圭吾さんに関するクイズです

《こたえは最後のページに》

- I 少年の時、母親から渡された初めての本は
①ジャックと豆の木 ②フランダースの犬
③ガリレオの伝記 ④次郎物語
- II 高校生の時、姉から渡されて読んだ小峰元さん(姫路市出身)の推理小説は
①ピタゴラス豆畑に死す
②ソクラテス最後の弁明
③パスカルの鼻は長かった
④アルキメデスは手を汚さない
- III 大阪府立大学生の時、主将を務めた所属クラブは
①ボート部 ②スノーボード同好会
③アーチェリー部 ④フェンシング部
- IV 2006年にフランス映画にリメイクされた作品は ()は日本上映年
①秘密(1999年) ②レイクサイド(2005年)
③変身(2005年) ④手紙(2006年)
- V 日本推理作家協会60周年を記念して、小説化に挑戦した人気アニメは
①名探偵コナン
②クレヨンしんちゃん
③こちら葛飾区亀有公園前派出所
④ルパン3世



こと葉 便り

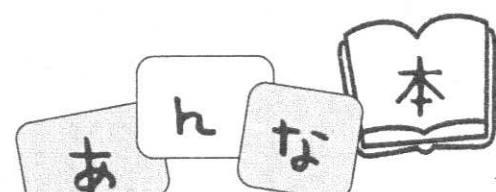
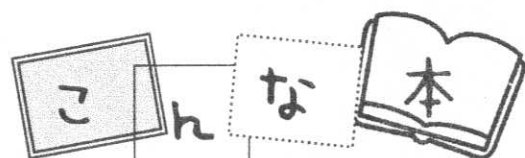
物理学者は、ミステリーがお好き!?

東野圭吾 編

小説を書くのは孤独な作業だ。しかしそれが一冊の本となって読者の手元に届くには、驚くほどの多くの人々の力が必要になる。その本によってもたらされる喜びや悔しさを彼等と共有できるなら、この仕事はもっとやりがいのあるものとなる。改めてそう思った。

～ エッセイ たぶん最後の御挨拶より ～
—『秘密』で第52回日本推理作家協会賞(1999年)を受賞して—

「勝てて良かった」この言葉は、オリンピック選手ではなく昨年の文芸書部門で、1位『流星の絆』、2位『聖女の救済』、3位『ガリレオの苦悩』と年間ベストスリーを独占した社会派ミステリー作家・東野圭吾さんの直木賞受賞会見(2006年)での発言です。デンソーのエンジニア時代に『放課後』で第31回江戸川乱歩賞を受賞(1985年)してから57作目となる『容疑者Xの献身』で念願の直木賞を手に入れました。さらに、“このミステリーがすごい”“本格ミステリーベスト10”“傑作ミステリーベスト10”“本格ミステリー大賞”の受賞に輝き、前人未踏の5冠を達成した作品となりました。また、昨年11月に公開された同名映画は、観客数が400万人を超える大ヒット作となり、今年も東野ミステリーに魅了されるファンが増えていくのでしょう。



『NEXT—ネクスト—上・下』

マイクル・クライトン／著 早川書房(933ク)



潜在的な抗癌物質を生成する細胞の所有権をめぐって争う患者と製薬会社。離婚訴訟に持ち込まれる遺伝子診断。ネズミの実験ウイルスを誤って吸い込んだ男の身に起こったこと。ヒトの遺伝子を導入されたチンパンジーとオウム。大学や企業がこぞって遺伝子研究を行う中で繰り広げられる様々な事柄が、DNAの螺旋のようにからみあっています。前半は場面転換が目まぐるしく読みづらいますが、後半落ち着いてきます。最初の「本書はフィクションである。フィクションでない部分を除いて。」という言葉が、なにやら空恐ろしい物語です。(み)

『地球徒歩トボ』

緒形拳／著 学習研究社(450才)

以前NHKで放送されたドキュメンタリー番組『プラネットアース』でナビゲーターを務め、番組収録のために世界の秘境を旅した俳優・緒形拳による写真エッセイ。アメリカの大草原でプレーリードッグとま



るで会話をしているような写真や、メキシコの森で蝶の群れに囲まれている写真など、番組を見たことのある人もない人も楽しめます。過酷であつたらうと思われる旅でも、自然体のままで、お茶目な表情も見せていて、かわいらしいスケッチや直筆の言葉からも緒形さんの人柄がうかがえます。見応えのある一冊です。(き)

『西の魔女が死んだ』

梨木香歩／著 小学館(K913ナ)

中学に進んでまもなく、学校生活になじめなくなっていたまいは、約一か月を田舎のおばあちゃん(西の魔女)のもとで暮らすことになった。魔女になるには、修行が必要で、その中でも、何でも自分で決める“ということが一番大事だった。魔女は自分の直観を大事にしなければなりません。でも、その直観に取りつかれてはなりません。」「クライマックスに思わず胸が熱くなります。もう一度、読みたくなり、生きる術まで考えさせられる作品です。

また、新潮社から出版されている文庫には、まいのその後を描いた『渡りの一日』が収録されています。(あ)



『ぼちぼちいこか』

マイク・セイフ／文
ロバート・グロスマン／絵
偕成社(EK)

みなさんカバという動物にどのようなイメージを持っていますか。どこことなくのんびり、おっとりして憎めないと思いませんか。そんなカバ君が、やる気を出していろいろなことにチャレンジしました。でもその結果は…。原書は英語ですが、大阪弁に訳されています。身近な言葉で子ども達にもなじみやすいのではないのでしょうか。私の子どもに、幼いときに読んでもらって印象に残っている本はなに?と聞いたところ、この本を薦めてくれました。単純明快で確におもしろい!楽しい本はいつまでも忘れないようです。一度読んでみてください。(か)